

「瀬戸内海に浮かぶ島々に行って思うこと」

記録的な暑さが続いた8月も終わり、地域の子どもたちも学校が始まりました。これからは日ごとに涼しくなって、過ごしやすくなっていきます。暑がりの私にとって、9月いっぱいまでは暑いという印象があります。皆様のご健康が支えられますようにお祈りいたします。



かれこれ四国に住み始めて15年が経ち、16年目に入っています。愛媛県で5年、香川県で10年が経ちました。生まれ故郷の群馬県には海がなく、群馬県北部に行けば山はありますが、実家は関東平野の一部にありますので、比較的平らな土地、道も比較的まっすぐな道が多く単調な運転となります。香川県は海も山も近く、自然に触れるにはとてもよいところだと思います。香川県に来てからしばらく経ちますが、瀬戸内海の島々に行く機会がありました。

小豆島が一番大きいですが、女木島、直島、本島、豊島、高速で降りられる与島などです。海なし県に住んでいすと、フェリーそのものに乗るという機会がありませんが、乗ってみると新鮮な気持ちでした。6年前に女木島に行った時に、ボランティアガイドの方が「昔、流行した瀬戸の花嫁という歌は、諸説ありますが、男木島から女木島にお嫁に行った歌です。」と話しておられました。ちなみに私が生まれた1972年の歌のようです。「島から島へ」というくだりがありますが、高台から眺めたところ、両方の島の距離はとても近い印象を受けました。架空の設定の歌でありながらも、瀬戸内海の美しさやマリナー号に乗っている時に水平線に沈む夕日の美しさは言葉に表すことができません。

先日、娘と豊島に行く機会がありました。豊島はフェリーではなく写真のように旅客船です。豊島も観光地になっていて、外国からの観光客も何人もいました。港近くでレンタル自転車を借りて、いくつかのところに行きました。無料ガイドブックには日本基督教団豊島教会が載っていましたので、近くで写真を撮ることができたらいいかなと思い、アポなし、連絡なしで教会を訪ねたところ、ちょうど神学生が夏期伝道実習で、東京から来られていました。牧師はその時は留守でしたが、親切に礼拝堂の中まで案内してくださり、短い時間お話することができました。話を聞くといろいろなところにつながっており、共通の知人の牧師夫妻が話題として出たことも親近感がわきました。ガイドブックによると豊島は島民人口が約800人くらいだそうです。それでもその島に教会があり、信じる人たちが毎週集まり、礼拝がささげら、集会が開かれていることは素晴らしいことです。瀬戸内海の島には無人島もありますが、それぞれの島で福音が伝えられていることや島によっては教会があることに大きな感銘と刺激を受けました。

聖書の詩篇97篇1節には「**主は王である。地は小踊りせよ。多くの島々は喜べ。**」とあります。またイザヤ40章以降をずっと読んでいきますと、「**島々**」と繰り返して出てきます。イザヤ41章1節には「**島々よ、わたしの前で静まれ。諸国の民よ、新しく力を得よ。・・・**」とあり、イザヤ42章12節には「**主に栄光を帰せよ。島々にその栄誉を告げ知らせよ。**」とあります。新約聖書でも島の大きさの規模は瀬戸内海のそれとは違いますが、「マルタ島」などが出てきます。

聖書が扱う地理的の広がりはある国のある地域ではなく、世界規模です。「**すべての国々よ**」、「**すべての国民よ**」（詩篇117篇1節）とありますし、新約聖書でも「**あなたがたは行って、あらゆる国の人々を・・・**」（マタイ28章19節）とある通りです。

聖歌の中にサブタイトルで「**いずこにある島々にも**」という賛美があります(576番)。世界のあらゆる国や地域、島々にイエス・キリストのよき知らせである福音が伝えられつつあることは素晴らしいことです。「津々浦々」という言い方がありますが、この日本でもあらゆるところにおいてそのよき知らせを聞いて、自分のこととして信じ、神様の愛と赦しをいただいた人たちが礼拝者として、主なる神こそがすべてを支配しておられるお方であり、主に栄光を帰します。

すべての国々、すべての国民ということは、私たち一人一人も含まれています。聖書に書かれたメッセージはどこか遠い外国の人たちに対するものではなく、「今、この時代に、この地に住んでいるこの私」に対するメッセージであることを、真摯に受け止めさせていただきます。神様からの導きがありますようにお祈りいたします。